

平成27年度学校関係者アンケート結果についての考察一覧

評価項目		低学年	高学年	保護者
教育目標・教育計画	質問項目	(1)	(1)	(1)
	肯定的評価	91.6%	83.5%	95.4%
	考察	約10%の児童が否定的評価である。学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察することが必要である。	17.5%の児童が否定的評価である。学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察することが必要である。	子どもが楽しく学校に通っていると、ほとんどの保護者はとらえている。
教科指導	質問項目	(2)(3)(4)(5)(6)	(2)(3)(4)(5)(6)	(2)(5)(7)
	肯定的評価	86.9%	88.8%	88.0%
	考察	約96%の児童に好きな授業がある。「わからないときに質問しやすい」などの項目の肯定的評価が、約80%となっているので、引き続き、学び合いの学習形態を推進する必要がある。	約93%の児童に好きな授業がある。「わからないときに質問しやすい」などの項目の肯定的評価が、約84%となっているので、引き続き、言語活動の充実を図ったり、学び合いの学習形態を推進したりする必要がある。	基礎学力の定着に向けての取組は、約95%と信頼を受けている。「授業が楽しい」という項目については、85%となっているので、できる喜びや考える楽しさなどを感じる授業づくりを強化したい。
道徳・特別活動	質問項目	(12)(13)(14)	(12)(13)(14)(15)(16)	(12)(13)(14)
	肯定的評価	93.0%	94.9%	95.1%
	考察	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。	道徳教育、規範意識の育成の取組が家庭でも行われている。今後も、家庭と学校が連携を図りながら取り組んでいきたい。
人権教育	質問項目	(7)(8)(10)(11)	(7)(8)(10)(11)	(3)
	肯定的評価	93.2%	87.1%	93.0%
	考察	仲間づくりの観点では良好な児童がほとんどである。また、いじめのない学級づくりに対する教員の姿勢については、98%で伝わっている。	約97%の児童は学校で友達に会うのは楽しいと回答しているが、悩みを相談できる友達がいる児童は約90%である。児童同士をつなぐ取組を引き続き充実させる。いじめのない学級づくりに対する教員の姿勢については、約89%で低学年に比べて低いので、伝わっていない。	人権教育の取組が、理解されている。
生徒指導	質問項目	(9)	(9)	(4)(6)
	肯定的評価	83.8%	65.8%	92.9%
	考察	友達同士で解決できないような心配事があったときは、先生など大人に相談できるようにアプローチしていきたい。	自立心を育てるとともに、困ったときは先生など大人にアドバイスを受けることをアプローチしていきたい。	ほとんどの保護者が子どもの悩み事を学校に相談できると回答。子どものことで学校へ相談しにくい保護者にもアプローチしていきたい。
安全管理	質問項目	/		(8)
	肯定的評価			90.7%
	考察			「東山子ども安全見守り隊」の方々の協力に感謝している。児童への登下校の指導を強化していきたい。
地域との連携	質問項目	/		(9)(10)(11)
	肯定的評価			80.3%
	考察			行事への参加、学校からの情報発信については、肯定的評価が高い。